

R4 集落实態調査からの報告 No.11

自治会の現状

自治会の維持の見通し

自治会の今後の方向性

◎ 自治会の現状

単純に高齢者の人口率と戸数をもとにした集落の区分方法による「限界集落」等の区分は次のとおりです。

(存続集落 = 人口の 50%以上が 55 歳未満 の集落 準限界集落 = 人口の 50%以上が 55 歳以上 の集落 限界集落 = 人口の 50%以上が 65 歳以上 の集落)

限界集落等の推移

(自治会数、%)

	自治会数	令和 5 年						平成 18 年						増減					
		存続集落	占有率	準限界集落	占有率	限界集落	占有率	存続集落	占有率	準限界集落	占有率	限界集落	占有率	存続集落	増減率	準限界集落	増減率	限界集落	増減率
小浜地区	34	2	5.9%	28	82.4%	4	11.8%	31	91.2%	3	8.8%	0	0.0%	▲29	▲93.5%	25	833.3%	4	皆増
新殿地区	25	1	4.0%	15	60.0%	9	36.0%	24	96.0%	1	4.0%	0	0.0%	▲23	▲95.8%	14	1,400.0%	9	皆増
旭地区	25	1	4.0%	9	36.0%	15	60.0%	19	76.0%	6	24.0%	0	0.0%	▲18	▲94.7%	3	50.0%	15	皆増
岩代地域	84	4	4.8%	52	61.9%	28	33.3%	74	88.1%	10	11.9%	0	0.0%	▲70	▲94.6%	42	420.0%	28	皆増

集落实態調査における一つの考え方である「限界集落」等について、令和 5 年（令和 5 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳に基づき算出）の岩代地域内の現状は、存続集落が 4 自治会、準限界集落が 52 自治会、限界集落が 28 自治会となっています。

地区別にみると、小浜地区（準限界集落）は存続集落が 2 自治会、準限界集落が 28 自治会、限界集落が 4 自治会でした。

新殿地区（準限界集落）と上太田地区（限界集落）を合わせた新殿地区では、存続集落が 1 自治会、準限界集落が 15 自治会、限界集落が 9 自治会でした。

旭地区（準限界集落）では存続集落が 1 自治会、準限界集落が 9 自治会、限界集落が 15 自治会となっており、唯一、限界集落が 60% と半数以上となっています。

限界集落は、平成 17 年の合併当時は 0 でしたが、令和 5 年では 28 自治会（全自治会の 33.3%）となっています。また、準限界集落は、10 自治会から 52 自治会（全自治会の 61.9%）となり、わずか 17 年余りで限界集落が 28 自治会の増（皆増）、準限界集落は 42 自治会の増（420.0% 増）と少子高齢化と人口減少が急激に進んでいることがわかります。 ※「限界集落」という言葉は、あくまでも一つの考え方であることをご理解願います。

◎ 自治会の維持の見通し

◇「このまま維持が可能」との回答は、岩代地域全体では **8/84 自治会、9.5%** でした。

地区別にみると、小浜地区が 3/34 自治会、8.8%、旭地区が 5/25 自治会、20.0% ですが、新殿地区では 0/25 自治会、0.0% です。

「まだ人がいる」「住民の意志が強い」など意見がありました。

◇「当分の間（5 年から 10 年）は維持が可能」との回答は、岩代地域全体では **64/84 自治会、76.2%** であり、3 地区とも 70% 台と最も多い回答です。

「若い人がいない。高齢化が進む一方」「5～10 年後は人がいなくなる」「10 年位は何とかなる。40 代 50 代が少なく、50 代が転出している」「10 年後は

自治会維持の見通し

(自治会、%)

	自治会数	このまま維持が可能		当分の間(5年から10年)は維持が可能		維持は難しい		わからない	
		数	%	数	%	数	%	数	%
小浜地区	34	3	8.8%	27	79.4%	4	11.8%	0	0.0%
新殿地区	25	0	0.0%	19	76.0%	6	24.0%	0	0.0%
旭地区	25	5	20.0%	18	72.0%	1	4.0%	1	4.0%
岩代地域	84	8	9.5%	64	76.2%	11	13.1%	1	1.2%

◎ 自治会の今後の方向性

自治会の今後の方向性

(自治会、%)

	自治会数	このまま自治会を維持		自治会の再編(近隣自治会と合併するなど)が必要		自治会ごと別の地域に移転する必要がある		自治会の再編や移転は必要だが困難		分からない	
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
小浜地区	34	20	58.8%	11	32.4%	0	0.0%	2	5.9%	1	2.9%
新殿地区	25	14	56.0%	6	24.0%	0	0.0%	4	16.0%	1	4.0%
旭地区	25	10	40.0%	9	36.0%	0	0.0%	5	20.0%	1	4.0%
岩代地域	84	44	52.4%	26	31.0%	0	0.0%	11	13.1%	3	3.6%

新殿地区は、6/25 自治会、24.0%と他地区に比べてやや低い結果となりました。

「この先、戸数が少なくなれば考えなくてはならない」「必要と思うが、自治会が大きくなるとまとまりにくくなる」「まだ具体的になっていないので可能かどうかわからない」との回答がありました。合併に前向きな「指導してほしい」や「近隣の自治会と交流がある」との回答もありました。

◇「自治会ごと別の地域に移転する必要がある」との回答はありませんでした。

◇「自治会の再編や移転は必要だが困難」との回答は、岩代地域全体では 11/84 自治会、13.1%でした。

小浜地区では 2/34 自治会、5.9%、新殿地区では 4/25 自治会、16.0%、旭地区では 5/25、20.0%と各地区によりばらつきがあります。

「隣接自治会と揉めるのではないかと、すんなりとはいかない」「大きい組織になると参加しない人が出て、崩壊していく」「集落(自治会)のこだわりがあり、うまくまとまるか?」「人間関係により難しい」との意見がありました。

回答をまとめますと、当分の間(5年から10年)維持できると考えており、このまま自治会を維持していくとの回答が多数を占めていますが、このまま維持が可能と考えている自治会がある一方、維持は難しいので自治会の再編が必要と考えている自治会もあることがわかりました。

5年後、10年後の自治会がどうなっているのか。どうしたいのか。自分たちにできることは何か。自治会内で話し合ってもらいたいと思います。

人口減少時代のまちづくりのキーワードは、「うれしい」「楽しい」「面白い」といわれています。そして、地域の会合、伝統行事、環境整備、イベント等については、「やりたいこと」「やるべきこと」「やれること」の3要素が重なる真に必要な活動に限定して行うべきとの意見もあります。

「うれしい・楽しい・面白い」ことを「やりたいこと・やるべきこと・やれること」で判断し、自治会を運営していくことが大事なのかもしれません。

ただし、「やらなければいけないこと」もあることを忘れてはいけません。

70代から80代が主力」といった回答がありました。

◇「維持は難しい」との回答は、11/84 自治会、13.1%でした。

地区別では新殿地区が6/25 自治会、24.0%と他地区に比べて高い結果となりました。

「高齢者世帯が増えてきている」「後継者がいない、集会も年寄りばかり、息子たちが出てこない」「大雨災害による転居があり、世帯が減っている」「自治会内の平均年齢が高くなり、5~10年先活動できるか」といった回答がありました。

しかし、「子供たちが増加している」という自治会もありました。

◇「このまま自治会を維持」との回答は、岩代地域全体では 44/84 自治会、52.4%と約半数で、最も多い回答でした。

旭地区においては、10/25 自治会、40.0%と他地区に比べてやや低い結果となりました。

「今のところ大きな問題は無い」「なまじ再編して範囲が広くなってメリットはあるのか」「再編は必要だが困難なため、このまま自治会を維持していく」「ぎりぎりまで頑張る」などの回答がありました。

◇「自治会の再編(近隣自治会と合併するなど)が必要」との回答は、岩代地域全体で 26/84 自治会、31.0%でした。